

四旬節第一主日 2020.3.1

## 悪魔の誘惑

マタイ福音書 4章 1-11 節

さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」

イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』／と書いてある。」

次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、／あなたの足が石に打ち当たることのないように、／天使たちは手であなたを支える』／と書いてある。」

イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言われた。

更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。

すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」

そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。

## 説教

「金、権力、名誉」は成功のあかしでもあり、つまづきのはじめでもある、といわれます。きょうの福音は悪魔の三つの問いとそれに対するイエスの三つの答えという構成になっています。

1)神の子ならこの石をパンに変えてみよ。

→人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるものである。

2)神の子ならここから飛び降りてみよ。

→神を試みてはならない。

3)ひれ伏してわたしを拝むなら、すべてをあなたに与えよう。

→主なるあなたの神を拝し、ただ神のみに仕えよ。

そして悪魔との問答、対決はこのような幕引きとなります。

**すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。マタイ 4:10-11**

イエスは悪魔を退治したわけではなく追っ払った。すると、天使たちがイエスに仕えたとあります。

ここでイエスが悪魔を退治してしまうと、現代風の言い方では「金、権力、名誉」をイエスが手に入れることになります。悪魔は退治されこの世から消えてしまい、そのかわりにイエスがこの世を支配するという結果になります。だからこそ、イエスは悪魔をしりぞけるだけでよく、悪魔のかわりに天使たちがイエスに仕えました。

イエスはこの悪魔との対決のあとう宣言して宣教を開始します。

**イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。マタイ 4:17**

どうして天の国が近づいたのでしょうか。それはイエスが悪魔を退治せずに退けたから近づいたのです。パウロはこのように解釈しています。

**一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。**

ローマ 5:18

イエスが悪魔と対決してそれを退け、宣教のすえに十字架に架かけられて贖罪をなしとげたことを「一人の正しい行為」と言い切り、それゆえにすべての人が義とされて命を得たと解釈しています。イエスの生涯をとおして神の

国が実現したとパウロは受けとめています。

いま現在のわたしたちの世界はどうなっているのでしょうか。イエスが宣言した「天の国は近づい」ているのでしょうか。パウロが力強く説教しているように「一人の人の正しい行為によって、すべての人が義とされて」いるのでしょうか。いったい今のわたしたちは誰を主人としているのでしょうか。

わたしたちは石をパンに変えることに夢中になり、神の領域に手をつっこみ、自分自身を主人として目に映るすべてを支配しようとしているのではないのでしょうか。

四旬節のはじめにあたり、わたしたちもイエスのように「悪魔から誘惑を受けるために霊に導かれて荒れ野に行く」必要があります。

一人ひとりがイエスの正しい行為を思い巡らし、悪魔を退ける力を主の恵みによって授かることができますように。